



永代供養塔増設がほぼ完成しました。
落成の法要は春彼岸に併せて行いたいと思います。



第 146 号
(令和 8 . 1 . 1)
信 楽 寺

〒690-0052
松江市堅町 88
TEL (0852) 21-1589
FAX (0852) 21-1590
郵便振替口座番号
01450-3-13538
山陰合同銀行 本店営業部
普通預金 No. 3147251
宗教法人 信楽寺
代表役員 内田広平



お寺の様子をご覧下さい。



HP



Instagram



LINE



謹賀新年

令和八年元旦

信楽寺住職 楽 誉 広 平

副住職 強 誉 量 介

総代 一同



しゅしょうえ
修正会(初参り)
新年賀会は

中止とします。修正会は寺族(住職
家族)にて、大晦日から元旦にかけ本
堂に於いてつとめます。どうぞ自由
にお参り下さい。

正月三ケ日は本堂正面を開けており
ますので、初参りにお出掛け下さい。

目次

住職 楽 誉 広 平 2 頁

永代供養塔増設工完了
写真で振り返る令和7年後半行事

母のメッセージ

ひとのつながりとご縁

聖書道場を終えて

柳壇

追善寄付・寄贈図書

年会費について・令和8年回表

令和8年 行事予定・定例行事ご案内

副住職 強 誉 願 阿 量 介 6 頁

小倉 俊 城 6 頁

野々村 砂 織 4 頁

石 飛 和 彦 5 頁

8 頁 7 頁 7 頁 6 頁 6 頁 3 頁

永代供養塔増設工事完了

住職

楽 登

広 平

盆明けから取りかかっていました、永代供養塔増設工事は、建築工事、石貼り工事順調に進み、ほぼ完成をみました。(表紙写真)

当初先代住職が永代供養塔を建立した時には、戦没者供養、無縁仏供養、水子供養、総ての御霊を供養する為に、三界万霊塔という名称をつけ、半永久的に使用できるものとして建立致しました。

ところが建立後、時代の様相、家族の形態をとりまく、めまぐるしい程の変化によって、誰もが今まで通りお墓を建て、護っていく時代ではなくなりました。

そして、永代供養を希望される方が多くなり、想定外の早さで求められました。

当初の永代供養部分の空きが無くなった為、今回それに替わるものとして増設を行いました。

増設した供養塔は、車椅子スフリー化をして、納骨するときには、今まで以上に簡単に納骨ができる様に工夫しました。

求めて頂く費用は今までと同じです。随時申し込みを受け付けていますので、直接見て頂きますはお寺にご連絡頂きたいと思えます。もう二十年以上前になります。



先代が、永代供養塔に「三界万霊塔」と名付けた時に、私は「願の塔」と名付けたいと希望しました。その永年の想いを正面の「願願」に込めました。「願願」とは誰の願いなのか、それはもちろん阿弥陀仏様の願いであり、本願であります。「南無阿弥陀仏」と我が名を呼ぶ総ての人を、一人も漏らさず救いとります。とお約束してくださった阿弥陀仏様の本願に願う。ここに納骨される総ての方々が阿弥陀仏様のお導きによって、間違いなく西方極楽に往生されますことを、私は見守って参ります。

お寺にお参りされる方々が、供養塔の阿弥陀仏様へ有縁・無縁関係なくお念仏をお称えするその声が総ての御霊に届きますように永代供養をして参ります。春のお彼岸に併せて落成のお勤めをしたいと思います。

死者が恐れから憧れへ

NHKの朝ドラ「ばけばけ」が始まり、神在月の効果も手伝い、松江の一部の町では大変な賑わいがあります。

お寺の周りにはさしたる変化はありませんが。

目には見えない、あの世の世を、怪談話として世に広めた小泉八雲、セツ夫婦。

人間の情、恨み、苦しみ、情念、怨念など、この世に未練を残しながら死んでいった人々の悲かなお話しに心惹かれたのでしよう。

そして死者を恐れる話は今でもよく聞きます。

呪い、お祓いの話だったり、憑依するお話しなど、特に死者を恐れ、忌み嫌うのは、現代にも通じています。

友引の日には葬儀をしない、現在も続いています。何も根拠のある話でもないのに、友引の漢字の作りから、友を引く、友を道連れにする様に連想させ、葬儀を避ける風習が残っています。今更抗う必要もなく、迷信の様に生き続いています。

しかし、いつまでも死者が恐れ、忌み嫌われる存在であるわけにはなりません。

私は葬儀のお話しで、次の古いお歌を紹介します。



お寺の鬼門の方角に鎮座するきつねさん



先立たば
遅るる人待ちやせん
花の台を 半ばのこして

先に亡くなった方は、後から来られる方の為に、蓮の台を半分空けて、皆さんが来る席を用意して下さいます。

だからそんなに慌ててあの世に往く必要はないけれども、いつ、どの様な形でその別れがやってきても大丈夫。

死者は穢れなどではなく、先に極楽世界にお往きになられている先輩として、これからも手を合わせお念仏をお称えしましょう。

写真で振り返る令和7年後半行事

お盆の施餓鬼法要

8月4日松江組の御寺院様方と勤めました。



秋の彼岸法要

9月21日に勤めました。法要後は子供落語を披露して頂きました。



十夜法要

11月3日に勤めました。お塔婆の回向をおこないました。



浄焚会

12月6日に魂抜きのお勤めを行った後、皆様と一緒に焚き上げをしました。



母のメッセージ

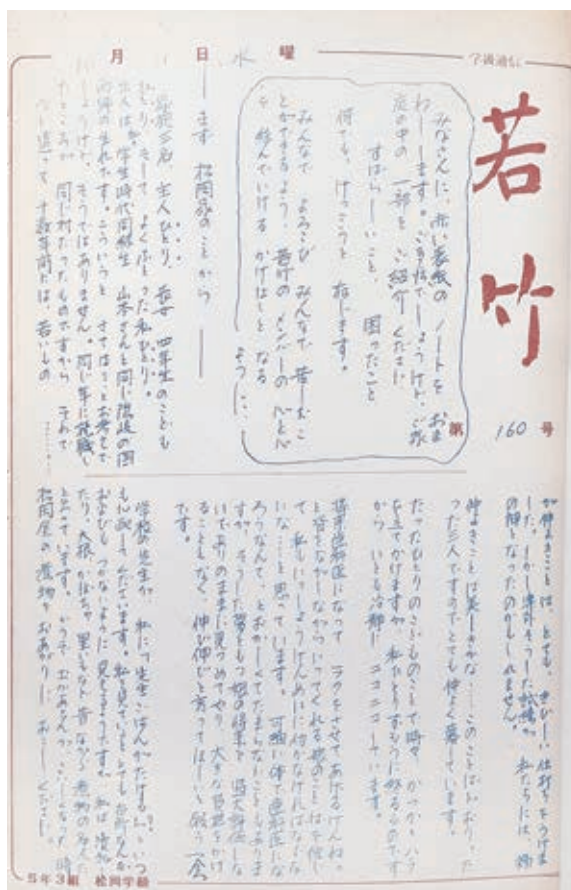
野々村砂織



幼少のころの筆者親子

私事ですが、信楽寺様には、亡くなった父の菩提寺が浄土宗であったこともあり、縁あって8年前からお世話になっております。この秋には、母が94歳で亡くなり、父の処へ送っていただきました。

母の通夜の日、読書好きだった母の棺に本を入れようと我が家の書斎に入った時のことです。本当に不思議なことですが、多くの本と物が積みあがった状態の物置と化した書斎の中で最初に一冊の文集が目に残りました。それは、56年前、母37歳



母 教員時代の学級通信

の時、教員として毎日忙しく働いていた時の学級通信の綴でした。他の文集は本棚のものと上の方にあるのにその文集だけは手に取れるところにあり、さらに不思議なことに開いたページは、担任である母の家庭紹介、まるで最後に読んでほしいと母が言っているようでした。

家族3名、主人ひとり、4年生の子どもひとり、そしてよく太った私一人。仲良きことは美しきかな三人仲良く暮らしています。(略) たった一人の子どもの事で時々カッカと腹を立てますが、私のひとり相撲ですから娘はいつも冷静にニコニコしています。(略)

将来の夢を語る娘がおかしくてたまらないこともあります。娘の将来を過大評価しないでありのままみつめてやり、大きな負担をかけることもなく、伸び伸びと育ててほしいと願う一念です。

こんな事を思いながらあなたを育てていたのだという最後のメッセージを受け取ったような気がしました。確かにどんな無茶な進路を言っても私の好きにさせてくれました。最後の最後まで、私や孫の無事を心配し

てくれました。

10年間の車いす生活を強いられ、身体もだんだん動かなくなり、本意ではなかったでしょうが、私の介護を受けるはめになった母。介護生活の中でお互いイラつくこともあり、私がかッカすることもあったのですが、時間がたつと母の方が冷静になって何もなかったかのよう

に穏やかに話かけてくれました。きつと母は、立場が逆になってしまいはしたものの昔の母娘の関係を思い出していたのでしよう。ともすれば厳しい介護をしてしまった私に昔からの母娘の関係だから大丈夫だったよと伝えていたような気もしました。

通夜の日目にしたガリ版刷りの母の字の学級通信の一文。それが一生懸命守り育てた家族への母の想いでした。いのちは繋がり、葬儀の翌々日、ひ孫が誕生しました。西方の世界で新しい命や私たちを父と共に見守ってくれているに違いありません。



ひ孫を抱く母

ひとのつながりとご縁

石飛 和彦



昨年、父を亡くしたときには、まだどこのお寺様ともつながっておらず、どうしたものかと途方に暮れていたのですが、信楽寺さんをお願いしたい、という

母の言葉に、あ、そうなのか、と少し驚きました。たしかに父も母も折に触れて信楽寺さんにお参りしたり、ときには奉仕に寄せていただいたりしていたという事は聞いてもいたので、身近に感じているお寺さんなんだなあとはいっていたのですが、もう心に決まっていたのかと少しほっとしつつ、そのようなこととお願いしていいものなのだろうかとも思ったものでした。それでも、いきなりなお願いを

お受けくださったこと、とてもありがたく大変感謝をしております。昨秋には無事にお墓を建てることもでき、安心するとともに、ふだん遠方に暮らしている自分自身にも、おさまりどころができた気持ちになっっています。

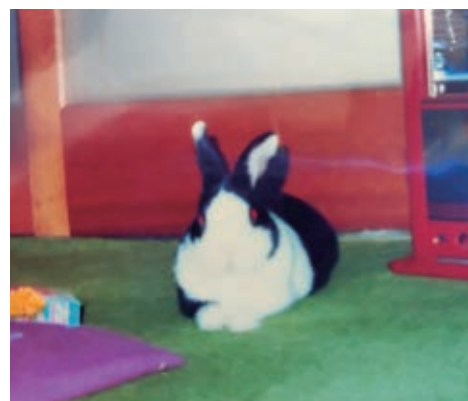
ふだんは奈良県にある大学で



地域の子もたちと大学生の「手形アート」

「社会教育」について学生さんたちに教えています。学生さんたちはじっさいに社会の中で人をつないだり学びをサポートする場を見学し経験を積むことで多くを得るようです。そのために、生涯学習センターや公民館や図書館、商店街やまちづくりのイベント、地域の子ども教室といったところに伺ったりするのですが、そのなかで、お寺さんの行事（地域の子どもたちを集めての地藏盆など）に寄せていただくこともあります。この原稿を書くにあたってあらためて思ったのは、そのようにしてお寺さんが、私たちのいちばん身近でひとが心を寄せて集まったり人をつないだりする場所だったんだなあ、ということでした。そのことが、このたび私たちがいただいたご縁にもつながったのかしら、と、あらためて感じました。

しかしご縁というものにはやはり不思議な、導かれたような感じがあります。30年以上前



飼っていたウサギの写真です

の話ですが、家族で可愛がっていたウサギが亡くなったことがありました。私はすでに実家を離れていたのですが、母はウサギの写真を持ってそのときや信楽寺さんに伺ったと聞きました。そのときそういうことをやってもらったのかはわかりませんが、いきなりのお願ひにもかかわらず、若い方が丁寧にお経をあげてくださったのだそうです。あらためてウサギの写真を見ながら、いまこうして信楽寺さんにお世話になることはずっと前からわかっていただけのかしらと、不思議なような安心したような心持ちです。

じしよ 聖書道場を終えて

副住職

「ごうよがんありようかい」
強譽願阿量介

10月24日から10月31日まで東京タワー近くの増上寺という大本山にて、聖書道場に入行してまいりました。この聖書道場を満行することにより、檀家様や信者様に五重相伝を行うことができるようになります。

私は加行道場を総本山知恩院にて終えましたので、修行道場として東京の増上寺に初めて入らせていただきました。私自身、加行以来の集団生活でしたので、はじめは少し戸惑いがありましたが、すぐに打ち解け互

いを励ましあい修行を行うことができました。

加行道場と同じく修行期間中の時間管理は細かく決められていました。勤行と先生のお話を聞く生活を繰り返し行いました。大勢の僧侶と行う勤行は迫力があり、緊張感もありました。勤行の中で、改めて気づかされることもあり、とても良い機会となりました。

講義の中で実際に五重相伝を行う際にする作法の細かい説明や会場設営を実際に設営するこ

とでとても分かり易く学ぶことができました。浄土宗の教えを聞く講義では、法然上人のお念仏のみ教えを分かり易くお檀家様にお伝えし、自らもお念仏を称えて相続していくことが一番重要なことだと思いました。

道場生活を送る中で浄土宗僧侶としてどう生きるべきかを再認識させていただきました。

今回の入行者は63名でした。無事に全員満行いたしました。自分自身今後とも精進していきますのでよろしくお願いいたします。

※加行道場とは浄土宗僧侶になる為の道場

柳 壇

7月

- ・夏夜空大輪の花彩る喜び
- ・進次郎やれば出来るの見本みせ
- ・消費者の切実願い米価格
- ・我が庭に初めて咲いた百日紅

8月

- ・朝トマトほとばしる味あつさり
- ・川柳も猛暑でにぶる五七五
- ・熱中症補給しすぎて水ぶくれ

9月

- ・猛暑でも忘れずに咲く彼岸花
- ・中庭の小さな一声秋を知る

10月

- ・研究者二人三脚ノーベル賞
- ・各地被害熊出現拡大す
- ・今の世は予期せぬ事がありすぎる

11月

- ・熊騷動生息範囲広がった
- ・散歩道ゴミ集積見つけ曜日知る

老夫婦生活

- ・無理をせず日課の散歩ひと休み
- ・人の目を気にする俺はまだ若い
- ・こりもせずもしかに賭ける宝くじ一日一生を生きる
- ・政治不信信頼回復達成せず
- ・親は子へ無償の愛を与え生さ
- ・地震予知歯切れの悪い専門家
- ・駄作でも我が句づくり日課です

小倉俊城

歌壇、俳壇、柳壇、投稿お待ちしております。



伝巻



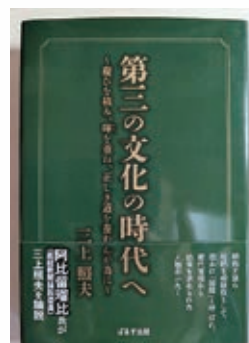
追善寄付

為 母追善	金一封	施主 富島 岳司	為 母追善	金一封	施主 野々村砂織
為 父追善	金一封	施主 坂井 淳一	為 母追善	金一封	施主 大野 豪俊
為 母追善	金一封	施主 北国 宏巳	為 先祖代々	楽茶碗と観音像	施主 大西 桂子

寄贈図書

著者 三上照夫奥様より寄贈 施主 三上 祥恵
 第三の文化の時代へ
 ～慶びを積み、暉を重ね、正しき道を養わんが為に～

為 先祖代々追善 施主 赤松 園子
 生きたくても生きられなかった
 いのちの写真集 著者 鈴木基之



施主 赤松園子様お手紙より

昨秋 熱海の親友から送られてきた写真集です。南方の戦地で亡くなった戦没者の遺骨収集の写真集を見て、今も南方の戦地で無念にも人生を断たれ、故郷を思いながら眠っている沢山の遺骨が残されたいことを改めて知り胸を痛めました。

著者鈴木基之氏は幼くして父親を南方で亡くし、何も分からないまま「お父さん。」と呼んでみたかったとの思いを胸に、今89才ですが、各地を回り遺骨収集の写真やお話を聞いて集め、パネル展など各地でしてられます。

写真集は今絶版なので最後の一冊、先代様の為に贈らせて頂きます。

出来ましたら多くの方に見ていただけたら有難いと思います。



大西桂子氏より坂田家に伝わる楽茶碗、観音像をご寄付頂きました。

令和8年度年会費(維持費)納入について

令和8年度年会費(護持費)の払込用紙を同封しております。

納入は6月一杯を納入期間としております

令和八年 年回表

延宝五年(一六七七)亡	三百五十回忌	享保十二年(一七二七)亡	三百回忌	安永六年(一七七七)亡	二百五十回忌	文政十年(一八二七)亡	二百回忌	明治十年(一八七七)亡	百五十回忌	昭和二年(一九二七)亡	百回忌	昭和五十二年(一九七七)亡	五十回忌	平成六年(一九九四)亡	三十三回忌	平成十四年(二〇〇二)亡	二十五回忌	平成二十二年(二〇一〇)亡	十七回忌	平成二十六年(二〇一四)亡	十三回忌	令和二年(二〇二〇)亡	七回忌	令和六年(二〇二四)亡	三回忌	令和七年(二〇二五)亡	一周忌
-------------	--------	--------------	------	-------------	--------	-------------	------	-------------	-------	-------------	-----	---------------	------	-------------	-------	--------------	-------	---------------	------	---------------	------	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----

令和8年 行事予定

行 事	期 日	時 間	場 所	備 考
しゅう しょう え (初 参 り) 修 正 会	お正月三ヶ日本堂へ初参りにお待ちしております。大晦日から元旦にかけおつとめします。		当山本堂	表紙に書きました通り寺族（お寺の家族）でつとめます。どうぞご自由にお参りください。
新 年 会	中 止		当山本堂	
ね はん え 涅 槃 会	2 月 中		当山本堂	2月15日はお釈迦様がご入滅なさいました涅槃の日です。2月一杯本堂に涅槃図をおまつりします。お参り下さい。
令和8年初めての 早 朝 墓 地 清 掃	3月15日(日)	午前7時からおつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒い時期でしょうが、今年最初の墓地清掃をいたしました。
春 彼 岸 法 要・ 永代供養増設開眼供養	3月20日(金) 春分の日	午後1時半より	当山本堂	表紙に写真を載せました、永代供養塔増設施設の開眼供養を、春彼岸法要に併せ予定します。永代供養に関心のある方も、無い方もどうぞ一緒に祝いください。
聖 徳 太 子 祭 り	7月22日(水) ～23日(木)		聖徳太子堂	22日は午後5時よりおつとめをいたします。聖徳太子堂に是非お参りください。夜には十七条憲法写経用紙で参道を明るく照らします。
墓 地 一 斉 清 掃	8月2日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	お盆前の一斉清掃です。綺麗な墓地にご先祖様をお迎えしましょう。
盆 施 餓 鬼 法 要	8月4日(火)	午前10時	当山本堂	初盆を迎える仏様を皆さんでご回向致しましょう。
棚 經	8月1日(土) ～15日(土)			皆さんのお宅にお参り致します。次号つきかげ発送にお参りの順番を同封し、ご案内申し上げます。
大 橋 川 灯 籠 流 し (松江仏教会主催)	8月16日(日)	午後7時より	宍道湖湖畔	お盆に還って来られたご先祖様を極楽の世界にお送りする為の灯籠流しです。
地 蔵 盆 お つ と め	8月23日(日) ・24日(月)		豎町灘側 地藏尊	
秋 彼 岸 供 養・ 永代供養法要	9月23日(火)	午前10時より	当山本堂	おつとめの後の予定は計画中です。
おてつぎ信行奉仕団 (本 山 参 拜)	未 定	詳細は次号にて お知らせします。	総本山 知恩院	
出 雲 教 区 檀 信 徒 大 会	未 定			
十 夜 法 要	11月3日(火) 文化の日	午前9時半より受付 10時よりおつとめ	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。
出雲教区詠唱大会	未 定	午後より		年に1度の詠唱の大会です。現在人数は少ないのですが、いつでも新入会員をお待ちしております。
今年最後の墓地清掃・ じょう ぼん え 浄 焚 会	12月5日(土)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

* ご詠歌の練習 *



毎月第1・3土曜日
午後1時半より
随時新会員募集中



* 墓地清掃 *

毎月第1日曜日早朝
1・2月はお休みします。
今年初めての朝掃除は
3月15日(日)朝7時からです。

* 写経会・写仏会 *

毎月22日 午後1時半より
写仏も出来ます。字の綺麗さには
こだわりません。千円の参加費が
必要です。皆様お待ちしております。

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。詳しくは本堂前の看板にて月行事ご確認下さい。